

めざす児童生徒像

「笑顔あふれる月津っ子」  
 ・自ら学び表現する子・・・主体的に学び、進んで自分の考えを表現する子  
 ・友達と協働できる子・・・友達や学校のために、他者と協力して働く子  
 ・ねばり強くやり抜く子・・・よりよくなろうと動き出し、最後までやりぬく子

※児童生徒達成結果－教員結果・保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策	
				教員	児童生徒	保護者				
(学校重点項目)	トライで笑顔	すべての項目について肯定する児童の割合を80%以上とする。	① よりよくなろうと考え、挑戦し続けている。	80	95.3	86		①については、キャリアパスポートの取り組みもあり、達成度が高いが、具体的でない目標がある。 ②については、児童の達成度と教員の達成度に差がある。あいさつを返さない児童が多い。	①キャリアパスポートに書く自分のめあてをより具体的に月に1度評価しやすいものになるよう働きかける。 ②6年児童が、「あいさつが返ってこない」と問題意識をもっていることから、感染予防に配慮した形で全校を巻き込んだあいさつ運動の取り組みを企画し、あいさつがでできる児童を育てる。	
			② 相手に伝わる挨拶を自分からしている	70	96.4	85				
			③ 学校やクラスのために委員会や係の活動に自分から取り組むことができた。	90	94.5					
			集計							
重点項目	働き方や業務の改善	すべての項目について肯定する教員の割合を80%以上とする	① 60時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。	81.8				4月は校務分掌や学級事務が多く、3割の職員が60時間超過勤務となった。その後徐々に減ってきた。仕事の目的を付けて計画的に取り組む体制になってきている。しかし、4月後半から正規の職員が減り、人手不足のため校務の標準化が難しい状況が生じている。	引き続き60時間超えを目標に、ワークライフバランスを整える働き方改革を継続していく。人手不足の部分を他の職員で補う場合、前例踏襲ではなく、その時々に応じた無理のない取り組みを考えていきたい。	
			② 校務分掌や業務の整理・統合が図られており、業務の標準化がなされている。	72.7						
			③ 提案活動後直ちに振り返り、提案文書を訂正し、業務の改善に努める。	100						
			集計							
小松市共通重点項目	学校研究	③について そう感じていると答える教員の割合を80%以上にする	① 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている。	55.6				③について、肯定的な回答を100%とすることができた。模擬授業を通して目指す児童・授業の姿を具体化したり、人間関係作りの取り組みにおいても先生方で実際に体験しながら共通理解をしていくことができた。 ①について、コロナ禍であること、計画していた講師の招聘が難しいなどの理由により、外部の目で実践を見ていただく機会をもつことができなかった。	二学期以降も研究実践を進めていくにあたり、取り組みの意図まで共有することや、実際に自分たちが動いてみて体験することを大切にしたい。全職員で共通理解のもと実践を重ねていくようにしていく。 ①については夏休みに要請訪問を設定した。外部からの意見もいただきながら、授業改善を進めていけるように場を設定したい。	
			② 研究主題に迫る目指す授業像(児童生徒像)を共有し、研究の視点に沿った授業研究会を計画的に行っている。	100						
			③ 教職員一人一人が授業研究に主体的に取り組み、自校の授業改善に向けた取組を共有・実践している。	100						
			集計							
	指導力の向上	授業	算数科において ②⑤の項目を児童・教員ともに80%以上にする	① 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	87.5	92.2			②について、児童、教員ともに目標である80%を超えることができていた。しかし授業中の児童の実態を考えると、本当に8割以上の児童が話し合いを考えたの深まりや広がりにつなげられているのか、という所で疑問が残る。 ⑤についても、児童、教員ともに目標である80%を超えることができていた。が、児童評価において1、3年生が100%なことに対し、5年生は78.9%であったりと、学年クラスによる差が大きい現状がある。	②、⑤ともに、それぞれの担任・児童がどのレベルの姿まで求めているのかによって達成率が違う現状がある。低・中・高のそれぞれの段階でどんな姿を求めているのかをまず全職員で共有できるようにしたい。その上で人間関係づくりの取り組みを行い、授業における話し合い聴き合いの実践を進めていきたい。
				② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。	87.5	91.6				
				③ (発表力) 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	87.5	88.0				
				④ (記述力) 児童生徒は、自分の考えを書く機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して書いている。	75.0	92.2				
				⑤ 児童生徒は、友達と話し合うとき、友達の考え(自分と同じところや違うところ)を受け止めて(聞いて)、自分の考えを持つことができていた。	87.5	91.0				
				⑥ 児童生徒は、振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。	87.5	94.6				
	学力の定着	学力調査	④⑤について目標点を達成することができる。	① 学力の重点目標や具体的な取り組みは全教職員で共通理解し、目標を達成できるよう取り組みは徹底して行っている。	100				①②については学校力向上ロードマップに沿って、進捗状況を確認しながら進めている。 ③については、今年度はコロナ感染対策を意識しながら、夏季休業中に行う予定である。 ④については、2、5、6年で目標点に届かなかった。また、⑤については2、6年で目標点に届かなかった。	④⑤について、2学期以降、チャレンジタイムを活用し、個別に支援や苦手な学習に対する補充学習を行う。2学期は重点的に行う単元を決め、学力調査問題を練習問題として組み込む等、学力向上に向けた取り組みを実践していく。月津スタンダードを早めにスタートさせ確実に児童全員が達成できるようにする。
				② 学校力向上ロードマップにおける各自の役割を教職員が理解し、定期的な検証がなされている。	100					
③ 近隣等の小中学校と学力調査の結果や分析、成果や課題を共有している。(小中連携)				88.9						
④ 国語 単元末の国語のテストの平均点を低学年は90点、中学年と高学年は85点を目標とする。				1年 93.0 2年 89.0	3年 85 4年 86	5年 81 6年 83				
⑤ 算数 単元末の算数のテストの平均点を低学年は90点、中学年と高学年は85点を目標とする。				1年 96.0 2年 80.0	3年 86 4年 91	5年 87 6年 83				
家庭学習		①について児童アンケートの割合を80%以上にする。	① 自分で計画を立てて勉強している(3年以上)	100	90.9			①自分で計画を立てて学習している と回答した児童の割合は90.9%(A評価55%、B評価36%)であった。	①の目標に対しては達成している。 年5回ある家庭学習強化週間を良い機会と捉える児童も多く、家庭学習の定着、強化に向けた啓発活動として機能していると思われるので、これからも声掛けを行いながら中身の充実を目指していきたい。	
				② 児童生徒の家庭学習の評価・指導を行っている	100					
				集計						
				集計						
				集計						

令和3年度小松市立月津小学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	<p>〈「学校が楽しい」と回答する児童を90%以上にする〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主体的、協働的、粘り強くやり抜く月津っ子の育成につながるような活動を児童会を中心に企画、運営していく。</li> <li>児童会年間活動計画を作成し、学校づくりの活動に計画的に取り組めるようにする。</li> <li>各委員会が全校に働きかける場を年間1回以上設定する。</li> </ul>	<p>「学校が楽しい」と回答した児童は、95.9%であり、90%以上だった。しかし、1学期は児童集会が行われなかったこともあり、児童会年間計画の通りに進めることが難しかった。2学期以降、スポーツフェスティバルやハッピーフェスティバルで、児童が主体となり運営できるよう働きかけ、達成感を得ることができるようしていきたい。特に、縦割りの活動では、「協働」「やり抜く」視点を大切にして働きかけていきたい。</p>	
特別支援教育	<p>〈どの子ども安心して学べるような環境を整える〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>長期的・短期的な支援計画を立てて、特別支援教育校内委員会を通して児童の理解を深める。</li> <li>特別支援教育校内委員会や児童理解の会を計画通り実施し、関係機関とも連携をとりながら進める。</li> </ul>	<p>「長期的・短期的な支援計画を立てて、特別支援教育構内委員会を通して児童理解を深めることができた」および「特別支援校内委員会や児童理解の会を計画通り実施し、関係機関とともに連携をとりながら進めることができた。」について教職員アンケートでは、どちらも肯定的な意見が100%であった。</p> <p>担任から気になる児童の相談があった場合、子の実態に応じて専門機関と連絡をとり、対応してきた。これからも、校内の心の相談員やスクールカウンセラーにも協力していただき、さらに、児童理解について深められるよう関係機関とも連携して取り組む。</p>	
道徳教育	<p>道徳教育の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業参観を利用し、年間1クラス1回以上道徳授業を公開する。</li> <li>「友情・信頼」の学びの足あとを残す。</li> </ul>	<p>4月の授業参観で2、3、5、6年で道徳の授業を公開できた。年間1公開授業を達成できるよう声掛けを行うようにする。重点項目の「友情・信頼」の学びの「足あとを残す」については100%（A評価37.5%、B評価62.5%）であった。1学期に「友情・信頼」の内容項目を学んでいないためだと考えられる。2学期以降声掛けしながら進めていく。</p>	
読書教育	<p>〈読書の質的な向上を図る〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1～3学年は「おすすめ10冊」、4～6学年は「読書ポイント10」を達成する。</li> <li>図書ボランティア・司書・担任などが読み聞かせやブックトークを行い、良書に触れる機会を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1学期の1～3学年の「おすすめ10冊」、4～6学年の「読書ポイント10」を達成率はそれぞれ72%、19.7%であった。2学期以降も引き続き声掛けを行っていく。</li> <li>図書ボランティアさんによる読み聞かせが当初の予定通りは実施できなかったが、6月24日より2回実施することができた。児童は普段触れ合うことのない本への興味関心をもつことができた。</li> </ul>	
保健安全教育	<p>〈自ら健康的な生活を身に付けようとする〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現代を健康的に生活するために、新しい生活様式「三密を避ける・マスクの着用・手洗い・換気など」の徹底を図る。</li> <li>1校1プランとして「柔軟性を高める準備運動」を継続的に取り入れ、運動に親しませるようにする。</li> <li>メディアールの呼びかけを図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい生活様式については、児童アンケートで98.2%と、意識を高く持っていることが分かった。これからは自分達で声を掛け合い、さらに気を付けて生活できるようにしていきたい。</li> <li>「柔軟性を高める運動」は1学期末から取り組み始めた。毎日取り組むことで児童に浸透させ、その中で、体を動かす楽しさを味わわせていけるようにしていく。</li> <li>メディアールにおいて、児童は82.6%・保護者は76%と、高学年ほど守られていない結果だった。昨今の現状を踏まえて、2時間という時間も大切だが、メディアール機器の使い方について考えていけるようルールの見直しを図っていきたい。</li> </ul>	
キャリア教育	<p>〈児童が自己の変容や成長を自己評価できるようにする。〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学期ごとに目標を立て、自己評価し、次の学期の新たな目標を立てることで、よりよくなるようとするPDCAサイクルを回す。</li> <li>キャリアパスポートに綴っていく自己評価シートの意義について職員に共通理解を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1学期は、児童全員が目標を立て、月末に評価するサイクルを回すことができた。</li> <li>しかし、「よりよくなるよう」の目標が曖昧であったり、1つに絞り切れていなかったりすることで、正確に自己評価することが難しい児童が多かった。現状を把握する必要がある。</li> <li>2学期は児童が1学期に課題だと感じたことをより明確にし、それをめあてにすることで、自己評価しやすい形にする。このようにできるよう、職員に共通理解を図る。</li> <li>正確な自己評価をすることで児童の自己肯定感をあげていきたい。</li> </ul>	
情報教育	<p>〈児童が主体的にICT機器を活用しようとする態度を育む〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>GIGAタブレットの効果的な活用方法の実践交流を行う。</li> <li>情報モラルにおいて、啓発する活動を学期に一回以上折に触れて行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>8月にICTインストラクターを招いてGIGAタブレットの効果的な活用方法の研修を行う予定。（26日）また、毎月行うミニ部会の中で実践交流を行っている。また、授業を行う教員全員が必ず受ける県指定の研修も8月までに3回うけることになっている。</li> <li>情報モラルについては学級活動や道徳（節度・節制、よりよい学校生活、集団生活の充実）等の中で、機会があるたびに啓発活動を行うようこれからも意識していく。</li> </ul>	
家庭との連携社会	<p>〈ふるさとを愛し、家庭・地域との連携を深める〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全学年が積極的に地域の人と触れ合う機会を設ける。</li> <li>学校から適切に情報を発信し、家庭や地域との連携に努める。</li> <li>ふるさとの良さを探求し、教育課程の中に取り入れる学習を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全学年が積極的に地域の人と触れ合う機会を設けるには、まだ新型コロナウイルスの対策上難しいものの、5年生の米作りや2年生の町探検3年生の地域の畑見学など、地域教材の開拓を進めた。2学期はコロナ対策をしながら、より地域の良さを実感できる教材を開拓していく。</li> <li>家庭や地域との連携については、コロナ禍のため制限が多い中でも、昨年度よりより感染対策をしながら公開する方向で考えている。しかし、保護者の意見の中には学校行事等で保護者が参観できないことが多く、学校との関係が希薄になっていると感じているという意見があった。参観以外で児童の様子を家庭や地域へ発信する方法を考えたい。</li> </ul>	

学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリアパスポートの取り組みはとても良いので、継続してほしい。</li> <li>3年の担任が産休に入ることが分かっていて、講師を見つけることができずに担任が何度も変わるようになったのは保護者としては不安だという地域の声を聞く。学校だけでなく地域からも市や県に要望をしていく必要がある。</li> <li>挨拶は声を出すだけではない。お互いに目を見て心を通わせることが大事。いろいろな取組をしてみるとよい。</li> <li>自学のネタがないと聞く。家庭でしかできないこと（興味のあるもの）に取り組めるようにしたらよい。</li> <li>働き方改革を進めるにあたり、勤務時間を減らすばかりではなく、職員が気持ちよく働ける環境作りをしてあげてほしい。</li> <li>縦割り活動は大変良いことである。公民館でも世代間交流の取り組みをしている。地域の中でもできることが多くあるので、学校と地域が協力して進めていきたい。</li> <li>月津校区には素晴らしい人材が多くいるので、地域と連携し活用してほしい。学校のことを知る機会になるので学校だよりなどを町内の回覧板でまわすとよい。</li> <li>通学路を守るとは命を守るために大切なことであるので、何かあってからは遅い。早急に対処してほしい。</li> <li>コロナ後の学校を見据えて、行事などを精選するのに良い機会である。早めの取り組みをするとうい。</li> <li>タブレット活用の方法をしっかりと教えてあげてほしい。</li> <li>他校との交流など、もっと子どもの視野を広げる取り組みをしてあげたい。</li> <li>数字や文章では評価されない自己肯定感を高める活動で、多様性を認め合える学校であってほしい。</li> </ul>
---------	--